

バックナンバー一覧

★購入を希望される際は、巻末記載の世話人のいずれかまでご一報ください。

- 第1号** 品切
- 発刊の辞
シンポジウム
- ・現代における人間と哲学（名古屋）
 - ・芝田進午氏の科学労働論について（東京）
 - ・哲学史研究の方法と課題（京都）
 - ・現代観念論の諸形態（北海道）
- 研究発表
- ・カントにおける Subjekt の問題／太田直道
 - ・ヘーゲルにおける歴史主義と芸術／毛津和夫
 - ・論物論的分析論／近藤良樹
 - ・「対象の主體的把握」について／高田純
 - ・フォイエルバッハの唯物論の規約性／岩瀬充自
 - ・戸坂潤のイデオロギー論／吉田傑俊
 - ・現代労働とマルクス主義哲学の問題／鈴木富久

- 第2号** 500円
- シンポジウム
- ・哲学の対象と方法（京都・北海道）
 - ・現代における人間の自由（東京・名古屋）
- 研究発表
- ・仏教と思想史研究の方法／田中暢志
 - ・フォイエルバッハの感性概念とチェルイジエフスキーの芸術論／北島義信
 - ・意味と概念／尾崎周二
 - ・欲望について／中原三郎
 - ・初期ヘーゲルの道徳と人倫／池田正平
 - ・ライプニッツの哲学の基本性格／中河豊
 - ・ヘーゲル『論理学』における「判断」と実在／奥谷浩一
 - ・カントに於ける人間の理性と自由／谷治美
 - ・ヘーゲル認識論の基本性格について／太田哲男
 - ・ヘーゲル哲学に於ける認識の構造／横田栄

- 一
- 第3号** 品切
- シンポジウム
- ・現代における個人の問題（東京・北海道）
 - ・科学的精神の形成について（東海・大阪）
- 研究発表
- ・松川事件と思想の問題／木下英夫
 - ・プラグマティズムのコミュニケーション論／吉田充治
 - ・ヘーゲル矛盾概念の批判的分析／島崎隆
 - ・カントにおける人間の有限性の問題／岩崎龍太郎
 - ・ヘーゲル論理学における概念について／牧野広義
 - ・フォイエルバッハにおける「対象化」概念の展開／亀山純生
 - ・『資本論』の方法と『法哲学』の方法／両角英郎
 - ・ヘーゲルの「主観的精神」と概念把握／谷口孝男

- 第4号** 品切
- シンポジウム
- I. 民主主義の哲学的諸問題（東海・関西） II. 事実と価値（関東・北海道）
- 研究発表
- ・古代原子論の発展／小玉知史
 - ・判断力批判における「自由と自然の統一」と「構想力」／高橋顕
 - ・カントにおける「多様の総合的統一」という考え方について／鈴木恒夫
 - ・ヘーゲルの「因果性」批判について／岡本伸一
 - ・ハイデガーにおける「現象学」／植村恒一郎
 - ・ヘーゲル精神現象学における「経験」について／笠尾良三
- 第5号** 500円

シンポジウム

- I. 歴史と理性- ドイツ古典哲学の歴史的意義
 ・ドイツ古典哲学における人間の活動性の把握と人間の自己産出としての歴史・人倫態／北海道(横田栄一)
 ・実践理性をめぐって- カント哲学の批判的継承のために-／東海(中河豊)
- II. 社会意識と実践
 ・カール・ポパーとマルクス主義／関西(牧野広義)
 ・M. ウェーバーにおける社会科学と価値理念の相互関係について／関東(岩尾龍太郎)

研究発表

- ・アリストテレスにおける Energeia の諸相／永都軍三
- ・カントにおける歴史と人間／森下直貴
- ・J・J ルソーにおける『情念』概念の構造／古茂田宏
- ・ヤスパースの『カントの理念論』解釈について／新田孝彦
- ・日本近代哲学における現実主義／田平暢志
- ・実践的唯物論と美の主体的把握／志田昇
- ・『経哲草稿』における疎外感の論理構造とその性格／佐藤春吉

第 6 号

500 円

シンポジウム 現代の疎外

- ・報告・現代社会の疎外状況という新しいコミュニティ形成の運動(関西)
- ・報告・社会主義における疎外(関東)

研究発表

- ・ヘーゲル『法の哲学』における「行為」と「道徳」／橋本信
- ・ヘーゲルにおける思惟と存在の同一性と論理学／勝木吐夢
- ・ヘーゲルの自己意識と無限性／石橋とし江
- ・ヘーゲルにおける人倫的実体の問題性／赤井正二
- ・カントにおける実践的先天総合命題の問題／杉田聡

第 7 号

500 円

シンポジウム 情念と理性—現代の文化状況と主体の確立—

- ・報告・近世哲学における情念と理性—「受動」の概念と手掛かりとして—／関東(古茂田宏)
- ・報告・現代における情念と理性—主体形成論とのかかわりをめぐって—／関西(福山隆夫)

研究発表

- ・カントにおける「心理学」の問題／石井潔
- ・カント『宗教論』について—有限な理性的存在者の二重性と倫理的共同体—／小野寺玲子
- ・サルトルの現象学／水野浩二

第 8 号

600 円

シンポジウム 現代における理性と主体

- ・報告・生の世界の相関における「自己意識」としての理性—フッセルの「近代合理主義批判」および「相互主観性理論」を手引きとして—／東北(小熊正久)
- ・報告・近世哲学における理性と主体に関する試論—人類性=科学的な観点から—／関東(寺田元一)

研究発表

- ・ヘーゲルの推理的媒介に関する一考察／竹内章郎
- ・ヘーゲルにおける現実把握と「転倒」概念／小池直人
- ・ヘーゲルにおける観念的なものと実在的なもの／石橋とし江
- ・ルカーチ演劇論における人間把握／吉田正
- ・ハイデッガーと世間の問題／横松隆夫

発表要旨

- ・ヘーゲル弁証法への一試論／伊坂青司

第 9 号

600 円

シンポジウム 主体と共同性

- ・報告・共同主体から諸主体の共同へ／北海道(横松隆夫)
- ・報告・和辻倫理学批判のために／関東(池

田成一)

研究発表

- ・カントと身体の問題—「第一批判」についての覚書—/溝井真知子
- ・ヘーゲルの矛盾論, 矛盾の原理的意義の把握/川口民記
- ・初期ヘーゲルの「実践理性」の問題について/山口誠一
- ・カルナップの「世界の論理的構築」に於ける色構成/森田茂行
- ・ニュートン理論は反証可能か—境界設定問題と方法論—/植木哲也

テーマ別分科会

- ・物質と意識/中島賢司
- ・女性論/杉田聡

第 10 号

600 円

シンポジウム 認識と価値

- ・報告・価値認識における客観性の問題/関西(大塚賢司)
- ・報告・認識と価値—イメージ論の視角から—/関東(森下直貴)

研究発表

- ・ヘーゲルの判断論に関する一考察/木村博
- ・ヘーゲルの推理論と弁証法的認識の構造/武田一博
- ・Schema 改訳の試み(「図式」から「原型」へ)/大西光弘
- ・スピノザにおける感情制御の問題/真田郷史
- ・直観主義と数学の本性/金子洋之

テーマ別分科会

- ・日本文化の可能性/小池直人
- ・女性論/石川伊織
- ・科学とイデオロギー/石井潔

第 11 号

品切

シンポジウム いま哲学は何をなしているか

- ・報告/関東(石川伊織)
- ・シンポジウムのまとめ/東北(伊坂青司)

研究発表

- ・明証と意識流/尾形敬次

- ・価値の論理は可能か—内包的論理体系の構成可能性について—/高橋要

- ・マルシリオ・フィチーノの魔術論/伊藤博明

- ・ヘーゲルの無限論について/干場薫
- ・ライブニッツからカントへ/大西光弘

テーマ別分科会

- ・物質と意識/石井潔
- ・日本文化論/福山隆夫
- ・言語論/武田一博

第 12 号

品切

シンポジウム 哲学にとって「現実」とは何か

- ・報告 現実世界の实在性認識方法—相対主義の諸問題と实在論の可能性—/武田一博
- ・報告 転換期の時代とパラダイム論/井上文人
- ・報告 科学論と科学活動の関係を通しての考察/佐野正博
- ・シンポジウムのまとめ/豊泉周治

研究発表

- ・知覚における直接性試論/伊勢俊彦
- ・相対主義と歴史の問題—ハーバーマス近代化論の批判的検討—/加藤泰史
- ・技術(生産)と生活/菅野啓
- ・サルトルの全体化理論と主奴の弁証法/上利博規

テーマ別分科会

- ・日本文化論/細谷実
- ・科学と哲学/森田茂行
- ・女性論/石橋とし江
- ・物質と意識/中畑正志

第 13 号

700 円

シンポジウム 合理主義の再考

- ・報告 脱合理主義としての哲学/上利博規
- ・報告 ウェーバー(合理化)論への批判を手掛かりとして/小池直人
- ・シンポジウムのまとめ/石川伊織

研究発表

- ・ハイデガーの『ニーチェ』/西野真由美

テーマ別分科会

- ・物質と意識 感覚に現前するものとは何か—
哲学的知覚論の枠組み—/伊勢俊彦

『哲学の探求』総目次

第 14 号

品切

第 15 号

800 円

シンポジウム 自己意識の再検討—競争と
コミュニケーション—

- ・報告 競争と差別の論理/細谷実

研究発表

- ・ヘーゲルの「懐疑主義」について/木村博
- ・カントと超越論的論証の問題/遠藤寿一
- ・ヘーゲルの「精神」概念をめぐって/小池直人
- ・良心論における和解の問題/日暮雅夫
- ・科学と哲学/山崎広光
- ・言語論/小林望
- ・男性論/満井裕子
- ・日本文化論/中山一樹
- ・経験論と形而上学/伊勢俊彦
- ・ヘーゲル/千場薫
- ・フランクフルト学派とルカーチ、ウェバー、マルクス/福山隆夫
- ・創立十五周年に寄せて/石井伸男、古茂田宏

第 16 号

800 円

シンポジウム 言語論的転回とは何か

- ・報告 意味と实在/伊勢俊彦
- ・報告 《言語論的転回》とは何か—アーペル、
ハバーマスを中心に—/庄司信
- ・シンポジウムのまとめ/平田一郎

研究発表

- ・趣味判断の主観的普遍妥当性—カントにお
ける〈共通感覚〉—/水野邦彦
- ・ヘーゲル、ヘルダーリン、シェリング—
『ドイツ観念論最古の体系計画』の著者問
題について—/寄川条路
- ・還元主義に於ける言語と事象—「科学的基
礎付け」と「科学化」を巡って—/平田一

郎

- ・『物質と記憶』第一章における傾向の分析
/河津邦喜
- ・言語と認識/遠藤寿一
- ・ポスト伝統的法=道徳を考える/千場薫
- ・『日本霊異記』をめぐって/頼住光子
- ・日本文化の宇宙論的位相/木村博

第 17 号

700 円

特別報告 感情について

- ・報告 パトスのロゴス負荷性とロゴスのパ
トス負荷性/古茂田宏
- ・特別報告のまとめ/細谷実

テーマ別分科会

- ・言語論—信念を巡って/平田一郎
- ・日本文化論/石川伊織
- ・男性論—男性の自己解放について/遠藤寿
一

個人研究発表

- ・ドゥルーズの『意味の論理学』/河津邦喜
- ・利潤率低下法則の「傾向性」について/増
田和夫
- ・近代経済学の方法論史と経済学・数学論の
認識論史/大西宏
- ・フィヒテの言語論/木村宏
- ・ヘーゲルにおける「絶対者」の "Reflex"/
杉田広和

第 18 号

品切

シンポジウム 言語と認識

- ・報告 なぜ、カントは言語哲学を書かなか
ったのか/黒崎政男
- ・報告 実践的推論について/平田一郎
- ・シンポジウムのまとめ/千場薫

研究発表

- ・コギト問題に関する一考/太田学
- ・カテゴリーの演繹における構想力—『純粋
理性批判』第二版の演繹を中心に—/石井
稔
- ・哲学、宗教、政治—ヘーゲルの思想的転回
—/寄川条路
- ・「絶対的否定性」の構造と個性化の地平の

開示—ヘーゲルの仮象論—/黒崎剛

テーマ別分科会

- ・自然史における人間—主体としての自然と人間—/稲生勝

寄稿

- ・ジル・ドゥルーズの『差異と反復』について/河津邦喜

第 19 号

900 円

シンポジウム 全体観と哲学

- ・報告 現代自然科学の全体観—現在自然科学における弁証法的自然像—/稲生勝
- ・報告 プロセス哲学の有機体論/平尾始
- ・シンポジウムのまとめ/黒崎剛

研究発表

- ・「蜜蝋の分析」についての考察/吉田健太郎
- ・「包摂」について/永井俊哉
- ・理性と幸福—C. ヴォルフ『ドイツ語倫理学』第一部第三章の紹介/菅沢龍文

テーマ別分科会

- ・やさしいということについて/太田学
- ・デカルト『情念論』に於ける<passion>理解をめぐって/美頭千不美
- ・近代日本における「哲学」の問題/平山洋

第 20 号

900 円

シンポジウム 自然と人間—その倫理的考察—

- ・報告 プラトンの技術観/小野木 芳伸
- ・報告 カント哲学の限界内における環境倫理学の可能性/小野原雅夫
- ・報告 日本における自然と人間—その倫理的考察—/平山洋
- ・シンポジウムのまとめ/頼住光子

テーマ別分科会

- ・種差別か、しらずんば能力差別か?—ピーター・シンガーはいかにして障害新生児の安楽死を擁護するか—/土屋貴志
- ・デカルト『情念論』に於ける<passion>理解をめぐって/美頭千不美
- ・ウェーバー社会学における物象化論の位置

/鈴木宗徳

研究発表

- ・ヤスパースの「超越論的」感性論—『哲学的論理学・遺稿』よりカテゴリー論をめぐって—/今本修司
- ・アランのシーニュ論/河津邦喜
- ・超越論的システム論の可能性/永井俊哉
- ・ウェーバー研究は何を求めているか/橋本直人

第 21 号

品切

シンポジウム 道徳の根拠

- ・道徳の求めに従うわけ(理由)/大庭健
- ・大庭健「なぜ道徳を気にしなければいけないか」の批判/永井均
- ・道徳的根拠の妥当性の基礎付けに向けて/永井俊哉
- ・シンポジウムのまとめ/土屋貴志

研究発表

- ・「ホワイ・ビー・モラル?」の答え—客観主義への批判—/三石稔憲
- ・カント道徳哲学における定言命法の意義—定言命法は道徳的判定のテストたりうるか—/矢嶋直規
- ・歴史と認識/松本俊吉

第 22 号

900 円

シンポジウム 認識論はどこへゆく?

- ・存在論と認識論/鬼界彰夫
- ・認識論における>基礎づけ主義<と>反基礎づけ主義<との攻防/松本俊吉
- ・シンポジウムのまとめ/美頭千不美

ディベート&ディスカッション

- ・自由と規範—積極的安楽死を認めるべきか 積極的安楽死容認の根拠について—ディベート肯定側立論および補遺/金澤秀嗣・平出晋
- ・積極的安楽死を認めるべきか—否定側提題/橋本直人・鈴木宗徳
- ・ディベート&ディスカッションはいかにして若手ゼミで行われたか/土屋貴志

研究発表

- ・芸術の可能性—ハイデガーを手引きとして／小柳美代子
- ・人間的自然と道徳—ヒュームにおける道徳の基礎づけをめぐる／矢嶋直規
- ・ハンナ・アレントにおける「判断力」概念／今本修司
- ・不法支配に対抗するための法哲学新しい自然法—近代自然法論と法実証主義を越えて—／金澤秀嗣
- ・義務としての最高善—その“道徳的意義”へのアプローチ／清水明美

第 23 号 品切

シンポジウム 近代の人間モデルとフェミニズム

- ・フェミニズムと決断の主体／田崎英明
- ・ヘーゲルと近代的個人／石川伊織
- ・「プロレタリア」概念の再構築—「フェミニスト世界システム論」の視覚から—／古田睦美
- ・報告／細谷実

ディベート&ディスカッション 自由意志に基づく売春なら悪くないか

- ・「単純売春の非犯罪化に向けて」—刑事政策論的展開と哲学的アプローチ—／金澤秀嗣
- ・さまよう魂「分析批評」による「子守り歌」／中村裕子
- ・報告／河野哲也

個人研究発表

- ・フェミニズムと科学論の界面を議論するための試論—若干の文献紹介と、簡単な研究プログラムの提起—／塚原東吾
- ・理性批判と神／森禎徳
- ・カントの超越論的観念論／野内聡
- ・社会理論における二項対立の統合を目指して—ブリュエール理論の研究実践への方法的展開—／三浦直子
- ・言語における「理解」と「知識」／前田泰樹
- ・緒『視点』という著作の本質について／斉藤彰範

- ・「現代倫理学」と教育学の接点／小幡啓靖

第 24 号 1000 円

シンポジウム 宗教をどう捉えるか

- ・ニーチェのニヒリズム批判／千葉一弥
 - ・開かれた宗教を目指して／森禎徳
 - ・社会学的「宗教研究」批判の試み—現代の家族変容と新宗教—／三浦直子
 - ・ドグマとカオスの間で—シンポジウム「宗教をどう捉えるか」まとめ—／橋本直
- 特別報告 ディベートについて考える**
- ・報告／藤田祐一

個人研究発表

- ・『判断力批判』における快の感情について／甲田純生
- ・フッサールにおける述定意味—前期ハイデガーとの比較考察—／星揚一郎
- ・ハイデガーの真理概念—トゥーゲントハットによる批判を中心に—／佐々木護
- ・現代社会とアントロピー／松本俊吉
- ・ヘーゲルの知られざるトリアーデー『精神現象学』の理念型—／小屋敷琢己
- ・カントの空間概念について—『純粋理性批判』超越論的感性論の考察—／近堂秀
- ・ニーチェの言語論／千葉一弥

第 25 号 1000 円

創立 25 周年特別企画 若手ゼミ創立まで

- ・「若手哲学ゼミ」25 周年に寄せて／吉田傑俊
 - ・「若手ゼミ」創設の想い／吉田千秋
- シンポジウム アートを哲学する**
- ・哲学と神学のはざま—美と芸術の形而上学の歴史を展望する—甲田純生
 - ・老いと美—アドルノ、ドヴォルジャックの「晩年様式」論—／三崎和志
 - ・「アート」の概念を問いなおす—現在の流行現象を中心として—／石田香里
 - ・シンポジウム報告と討論のまとめ／小柳美代子

個人研究発表

- ・喜劇的なものの否定力—ヘーゲル美学に關

する一考察一／河野正宏

- ・反省と形而上学—ヘーゲル「仮象」の論理の解釈—／大河内泰樹
- ・情緒的直覚主義における一考察—M・シェーラー「倫理学における形式主義と実質的価値倫理学」—／上村崇
- ・デカルトにおける懐疑主義の克服／久保田進一
- ・「弁証法」とエクリチュール—デリダがフッサールから学んだもの—／村田憲郎
- ・写真の喚起力と破壊力—写真のメディア論のために—／小屋敷琢己
- ・ヨハン・ベルヌーイによる力学の原理の探求—自然学としての力学—／野澤聡

第 26 号 1000 円

シンポジウム 身体論再考の試み

- ・「身体論再考」について／河野哲也
- ・身体の現在／福田泰子
- ・身体技法の共有と「キモチ」の共有—東京エイサーシンカを事例に—／小林香代

個人研究発表

- ・ホワイトヘッドの哲学についての若干の考察／中村友
- ・実質的正義の追求といわゆる遡及効の禁止について—〈ラートブルフの公式〉をめぐって／金澤秀嗣
- ・人間と有機体の存在論的差異—ハイデガー有機体論の意義と射程—／斎藤元紀
- ・ニーチェの「人間」批判—ドゥルーズ『ニーチェと哲学』再読—／村田憲郎
- ・「取り囲む」こと—『探究』の Umgebung 概念をめぐって—／水本正晴

第 27 号 1000 円

テーマレクチャー 時間論

- ・『時間と意味』（講演要旨）／斎藤慶典・アリストテレスの〈今〉—『自然学』時間論の〈現在主義〉—／篠澤和久
- ・人格の時間的同一性と責任／弓削隆一

個人研究発表

- ・時間に関してオズマ問題は存在しないか／

柏端達也

- ・『純粋理性批判』における理性の関心—理論的理念をめぐって—／西村名穂美
- ・時計に表される時間／氷川雅則
- ・自我の階層性と時間の理解／福田敦史
- ・「比較」の技法—パラボレー、エイコン、シミリトゥード、イマーゴ—／星屋雅博

第 28 号 1000 円

テーマレクチャー 道徳の根拠

- ・道徳の「根拠」／大庭健
- ・脅さず、怯えず—倫理の理由律の倫理／小泉義之
- ・自由・民主主義道徳の根拠／笹澤豊

個人研究発表

- ・われわれと違う真理概念を考えることは可能か／岩沢宏和
- ・「倫理学の自然化」をめぐって—クワインとフラナガンを中心に—／木島泰三
- ・趣味判断批判の論点—主観的原理の発見が認識批判にもたらすもの—／北野安寿子
- ・信念文の論理形式について—信念文のパズルに対する単文のパズルの影響—／小山虎
- ・情動的態度—ペルクソンから情動の現象学へ—／塩野直之
- ・デネットの意識理論？／鈴木貴之
- ・初期ラッセルにおける、認識論と存在論の関係について／高村夏輝
- ・連鎖式パラドックスとその解決：概要／吉満昭宏

第 29 号 1000 円

テーマレクチャー 科学時代の哲学

- ・科学と哲学—自然主義の限界と哲学の役割—／小林道夫
- ・科学（者）の中の哲学（者）—哲学の生存戦略とそのアジェンダ—／戸田山和久
- ・哲学は「二流の科学」か？／野家啓一

個人研究発表

- ・ロククの一次・二次性質—パークリーの批判に答えて—／青木滋之
- ・動物は思考しうるか？—解釈主義的観点か

らの思考と言語の関係に関する考察／金杉武司

- ・はしごをけつとばす—規則遵守論と懐疑論／壁谷彰慶
- ・発話及び発話理解における合理性—グライスの協調原理について／川口由起子
- ・時間の現在主義の可能性—様相と時間の平行性をもとに現在主義は擁護可能か？／小山虎
- ・モメントとは何か—形式的存在論からの帰結／染谷昌義
- ・一般化への要求と経験の局所性—化学物質の許認可という事例を通じて／西村名穂美

第 30 号 1000 円

テーマレクチャー 哲学の現場？

- ・応用倫理学に関わる理由／品川哲彦
- ・真理と生の技法の探求／高橋久一郎
- ・私にとって哲学とは何か／森岡正博

個人研究発表

- ・共同行為論と〈われわれ〉／壁谷彰慶
- ・他性の言語—減圧的他者と言葉の沸騰—／杉本隆久
- ・いま何をしているのか？／竹内聖一
- ・超越論的論証と Invulnerability／土屋陽介
- ・「私」一般ではないこの私について語るこの可能性／新田智弘
- ・デカルトの因果性原理—それは身心の相互作用を排除するの—／山本祐歌

第 31 号 1000 円

テーマレクチャー 日本語と言語哲学

- ・文の概念はなぜ必要なのか／飯田隆

個人研究発表

- ・自然主義的認識論の原型—ロックを題材に／青木滋之
- ・話し手の指示とは何か？／荒磯敏文
- ・自己意識とは何か？—瞬間と持続の二契機を手がかりに—／枝村祥平
- ・ムーアのパラドクス未来形バージョンと信念の変化／川口嘉奈子
- ・ヒュームのマクドウェル批判／塩野直之

- ・再現性からの知識／高木健治郎
- ・独我論の「正体」／豊島徹
- ・世代間倫理の擁護／三谷竜彦

第 32 号 1000 円

テーマレクチャー 魂の教育は可能か—自由・知識・欲望—

- ・美のアイデアをめぐる手紙／田島正樹
- ・魂にとって“知る”とは何か？／納富信留

個人研究発表

- ・培養脳と素朴脳科学／青山拓央
- ・議論における不一致の構造／岩沢宏和
- ・ロックの哲学と「子ども」の概念／柿沼宏行
- ・根拠とともに何かを信じるということ／川口嘉奈子
- ・哲学的知識の限界／高木健治郎
- ・どうして人は自分が痛みを感じていることを知りえないのか／豊島徹
- ・ゲティア—、誤信念課題、理由の空間／水本正晴